



# あなたは「思いやりの心」を持って、子どもたちと接していますか？ 「将来の三原を担う子どもたち」を「家庭」を原点に考える！！

## これまでのPTCA運動を振り返る

(社)三原青年会議所では、子どもたちの教育環境をよりよいものにするために、家庭と学校の中に地域社会を巻き込み「地域の子ども」として育てゆく「PTCA(従来のPTAに地域社会～Community～を加えたもの)運動」を展開してまいりました。イベントとして、田野浦小学校での手作りいかだによる沼田川の川下り、地域の大人と子どものふれあいを目的とした鷺島でのミカン狩り、また「おやじの会」の推進などを行ない、昨年はコミュニティ・スクール制度の導入を行政に提案しました。

## 2009年度は教育の原点から見つめなおす！！

本年度(社)三原青年会議所では「家族愛」をテーマに、教育の原点であり、社会の最小単位である「家族」に着目し「家庭教育」から見つめなおしてゆきたいと考えます。

現在、育児やしつけなどに不安を抱えている親や、いじめや不登校などの悩みを抱えている子どもはたくさんいらっしゃると思います。その不安や悩みを少しでも解決してゆくことが、将来の三原を担う子どもたちを育てるための第一歩だと考えます。そのためには、子どもに対する親としてのあり方について親自身が学び、考えることが必要

なのではないでしょうか。さらに、親や地域の大人が「思いやりの心」を持って、子どもたちを育てる大切さを学び、行動することで、親と子ども、地域の大人と子ども、子どもと子どもなどのよりよい人間関係が構築できるのではないのでしょうか。民間でも(関連記事2面)行政でも、様々な支援の取り組みは始まっています。

将来の三原を担う子どもたちを育てるために、よりよい子どもの教育環境向上のために。皆さんと一緒に「家庭教育」を改めて見つめなおしてみませんか?(関連記事3面)

## 現代の社会環境

### 子育て支援

#### 子育て支援団体

- 親子間のふれあい事業

#### 行政

- さまざまな子育て支援の施策
- 次世代育成支援行動計画を策定

### 地域

- 自治会などへの参加減少
- 地域の大人と子どもとの接点の減少

### 家庭

- 両親の共働き
- 核家族化
- 家族・親子間の共有時間の減少

### 子どもたちのコミュニティ

#### 遊び方の変化

集団遊びから個人遊びへ  
→育まれにくい人間関係

### 学校

- 道徳教育を強化
- いじめや不登校への対策
- 放課後こども教室の実施

## 親という仕事の責任

子どもたちにたくさんの事を教えるべき親が、子どもたちにまったく教えずにいれば、どうなるのでしょうか。

実際の事例として、良く挙げられるのが「狼少女」というものです。その少女は幼い頃から狼に育てられ、発見されたときには人間には見えなかったそうです。しかし、そんな少女に人間としての教育を施すうちに、徐々に人間らしくなってゆきましたが、結果として、年齢相応の精神(こころ)の発達はできませんでした。

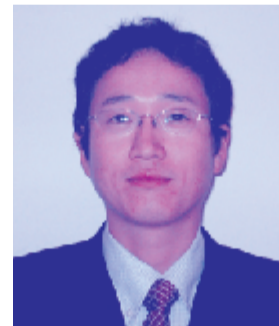
このことは「親」という仕事が、どれだけ子どもに対して「責任」を持つかという課題を投げかけます。子どもは生まれながらにして「思いやり」を持つ人間ではなく、親の教育により「思いやり」を持つのです。

## 思いやりの心を持つ大切さ

日本には「思いやり」という言葉があります。他人のことを自分のことのように考えて接する美しい文化です。

最近のテレビや新聞などの報道で、その様な「思いやり」の無い事件が多く聞かれます。このことは、世の中では「思いやり」が大人から子どもへと伝わっていないということを如実に示しているのではないのでしょうか。もしも、自分の命と同じように他人の命を大切に思える「思いやり」があれば、たくさんの不幸な事は起こらなかつたでしょう。

では、そのような「思いやり」の気持ちとは、どこで育まれるのでしょうか。それはやはり、最初に子どもたちが接する、社会の最小単位である「家庭」が重要な役割を果たしています。だからこそ、「思いやり」を育てるためにも「家族愛」は大切なのです。



教育再生委員会  
藤井 俊孝 委員長

親の背中を見て子は育つのです！  
子どもの「思いやり」  
を育てるために、まず  
大人が「思いやり」  
を育みましょう！

「思いやりの心を育てる大切さ」  
をテーマに、3月公開例会にて、  
講演会を開催します！  
詳しくは3面に！！